

# ひろしま川づくり実施計画 2011

～効果の見える河川整備への挑戦～



平成24年1月  
広島県土木局河川課

## 《 目 次 》

I	実施計画の概要	1
1	実施計画策定の趣旨	1
2	上位計画の概要	1
3	実施計画の位置づけ	3
II	本県河川の現状と課題	4
1	河川の現状と目指す県土の将来像	4
2	河川事業を取り巻く環境	6
3	河川事業の取り組むべき課題	6
III	計画の基本方針と実施計画	7
1	戦略の構築	7
2	計画策定における課題と施策	7
3	河川事業の基本方針	8
4	投資規模	10
5	実施計画の期間	10
6	防災・減災対策の充実・強化	11
7	優先度評価	12
8	事業実施箇所（評価結果）	13
9	ダム事業	14
10	地震・津波対策	15
11	他事業との連携	16
12	自助、共助、公助による地域防災力の向上	18
13	既存施設の的確な運用・管理による安心・安全の継続	20
14	河川環境の保全と川らしさの復元	23
15	水辺空間を利活用した賑わいづくり	24
IV	成果目標	26
1	成果目標	26

### 【参考】

河川改修・高潮対策事業の実施箇所	28
------------------	----

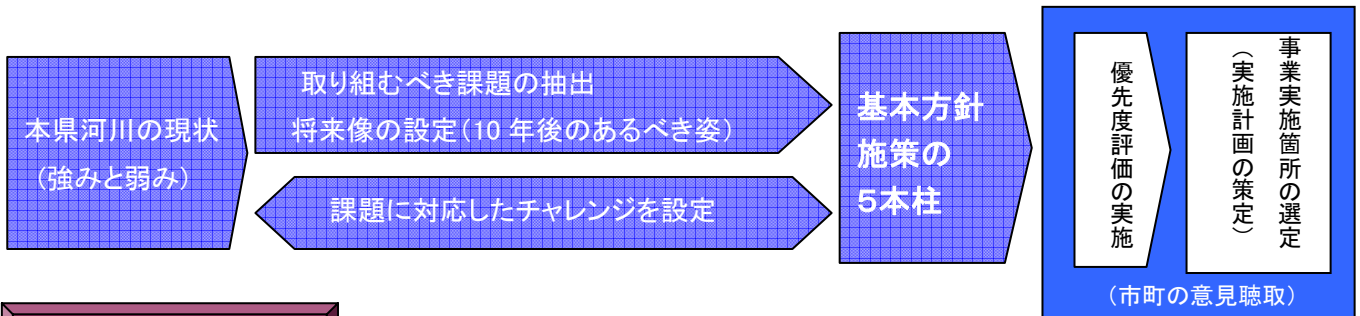
# I 実施計画の概要

## 1 実施計画策定の趣旨

### ◆ ひろしま川づくり実施計画 2011 ～ 効果の見える河川整備への挑戦 ～

「ひろしま川づくり実施計画 2011」は、目指すべき県土の将来像を示した「ひろしま未来チャレンジビジョン」の実現を下支えする「社会資本未来プラン」のマネジメント方針に基づき、洪水・高潮などの脅威からくる「弱み」を克服し、本県が持つ「強み」を最大限に活かすための河川事業の基本戦略を定めたものです。

### ◆ 「ひろしま川づくり実施計画 2011」の策定までの流れ



## 2 上位計画の概要

### ◆ ひろしま未来チャレンジビジョン ～ 県民の力とイノベーションで未来をつくる～

#### 基本構成

おおむね10年後を展望し、現在本県が直面している課題や今後深刻な影響を受けるおそれがある問題に対して有効な手立てが講じられない場合に予測される将来を明らかにした上で、県民みんなで目指す姿（将来像）を描き、これを実現する取組の方向や戦略を示したものです。

#### 基本理念

将来にわたって『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』と心から思える広島県の実現

#### 目指す姿の実現に向けた4つの挑戦

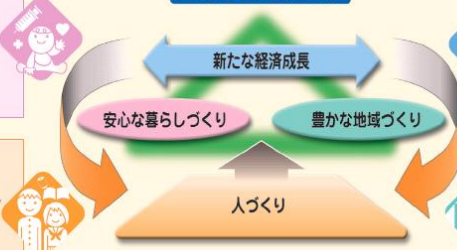
##### 安心な暮らしづくり

行政の第一の役割は、民間では難しい公共サービスの提供などにより、県民の暮らしの安心を確保することです。

##### 人づくり

経済、医療、福祉、教育など、あらゆる分野での力の源泉は「人」です。

##### 4分野の循環概念図



##### 新たな経済成長

人口減少の中で社会を維持していくには、イノベーションを通じて強い経済をつくり、魅力ある雇用を創出する必要があります。

##### 豊かな地域づくり

地域の特性や資源を活用し、ほかにはない魅力を創出しながら、新たな活力を生み出していくことが求められます。

#### < 推進する上での視点 >

- 1 「強み」を生かした活力の創出
- 2 「イノベーション」による新たな価値の創造
- 3 「グローバル化」への的確な対応
- 4 「県民主体」の新たな広島県づくり
- 5 市町及び近隣県との「連携」

◆ 社会資本未来プラン ～ 戦略的投資とマネジメントの最適化 ～

**策定の主旨**

広島県では、おおむね 10 年後を展望して広島県の目指す将来像を示した「ひろしま未来チャレンジビジョン」を策定しました。

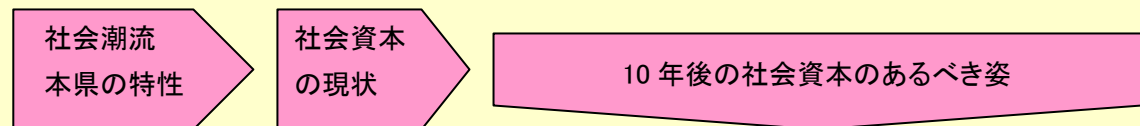
「社会資本未来プラン」は、「ひろしま未来チャレンジビジョン」が目指す県土の将来像を実現するため、土木局・都市局が担う今後の社会資本のマネジメントの基本方針を定めるものです。

**プランの期間**

プランの計画期間は、広島県総合計画「ひろしま未来チャレンジビジョン」が、おおむね 10 年後を展望して策定されたものであることから、10 年間（平成 23 年度～32 年度）とします。

**基本構成**

「強み」と「潜在能力」を最大限に活かし、最少の経費で最大の効果を発揮



**3つのマネジメント方針を効果的に進めるための施策・イノベーション**

**社会資本整備の重点化**

- ①広域的な交流・連携基盤の強化
- ②集客・交流機能の強化とブランド力向上
- ③環境保全と循環型社会の構築
- ④防災・減災対策の充実・強化
- ⑤自立した生活ができる環境の整備
- ⑥総合的な交通安全対策の推進
- ⑦持続可能なまちづくり

**社会資本ストックの有効活用**

- ①既存ストックの機能改善等
- ②ハードとソフト対策との一体的な取り組み

**社会資本の適正な維持管理**

- ①アセットマネジメントシステムを活用した維持管理計画の策定と推進
- ②新たな公との連携の推進

**効果的に進めるための施策・イノベーション（コスト構造改善策）**

- ①コスト構造改善 ②多様な主体との連携 ③施策の点検 ④事業ごとの整備計画の策定 ⑤社会資本整備のプライオリティの設定



「広島未来チャレンジビジョン」が目指している姿の実現

### 3 実施計画の位置づけ

#### ◆ 「ひろしま川づくり実施計画 2011」の位置づけ

「ひろしま川づくり実施計画 2011」は、目指すべき県土の将来像を示した「ひろしま未来チャレンジビジョン」の実現を下支えする「社会資本未来プラン」のマネジメント方針を効果的に進める河川整備の施策・イノベーションとなります。

## ひろしま未来チャレンジビジョン

～ 将来にわたって『広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった』と心から思える広島県の実現 ～

### 実現を支えるための社会資本マネジメントの基本方針

## 社会資本未来プラン

～ 戦略的投資とマネジメントの最適化 ～

社会資本マネジメント方針（※河川関係分抜粋）

#### Ⅲ-1 社会資本整備の重点化

◆ 広島県の底力を最大限発揮するための戦略的投資

- 創意工夫を加えた長期戦略
- 防災・減災対策の充実・強化

#### Ⅲ-2 社会資本ストックの有効活用

◆ 施設の潜在機能を最大限発揮するための効果的投資

- 既存ストックの機能改善等
- ハードとソフト対策との一体的な取り組み

#### Ⅲ-3 社会資本の適正な維持管理

◆ 施設機能を適切に維持するための投資の最適化

- アセットマネジメントシステムを活用した維持管理計画の策定と推進
- 新たな公との連携の推進
- アダプト活動等の促進

#### Ⅲ-4 3つのマネジメント方針を効果的に進めるための施策・イノベーション

コスト構造改善

多様な主体との連携

施策の点検

事業ごとの整備計画の策定

プライオリティーの設定

## ひろしま川づくり実施計画 2011

～ 効果の見える河川整備への挑戦～

## Ⅱ 本県河川の現状と課題

### 1 河川の現状と目指す県土の将来像

#### ◆ 河川の視点からの本県の「強み」と「弱み」

##### ① 「強み」となっているもの【Strength】

- 利便性の高い河川周辺への人口・産業の集積
- 「水の都ひろしま」の景観を形づくる広島市内を流れる河川（太田川、京橋川、猿猴川等）



■ 河川周辺への人口集積



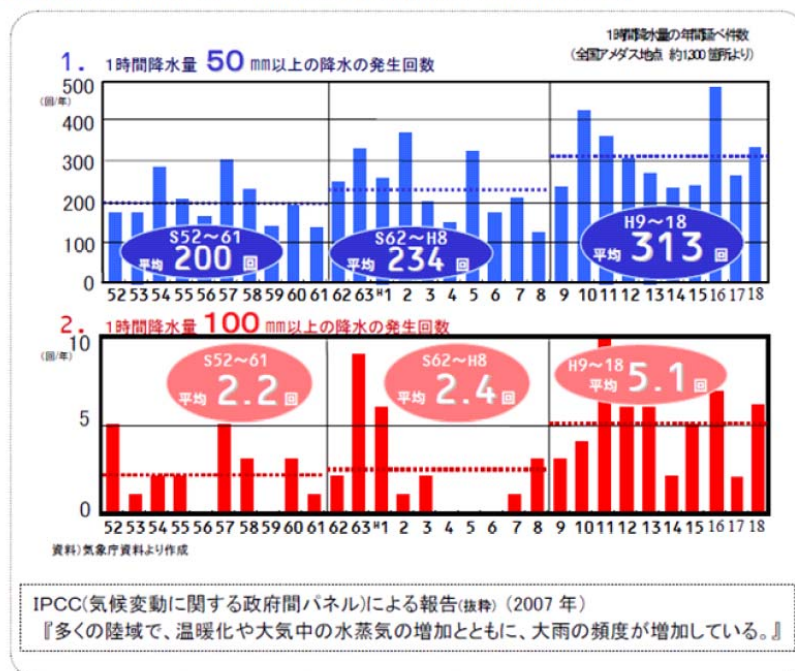
■ 「水の都ひろしま」の景観

##### ② 改善すべき「弱み」となっているもの【Weakness】

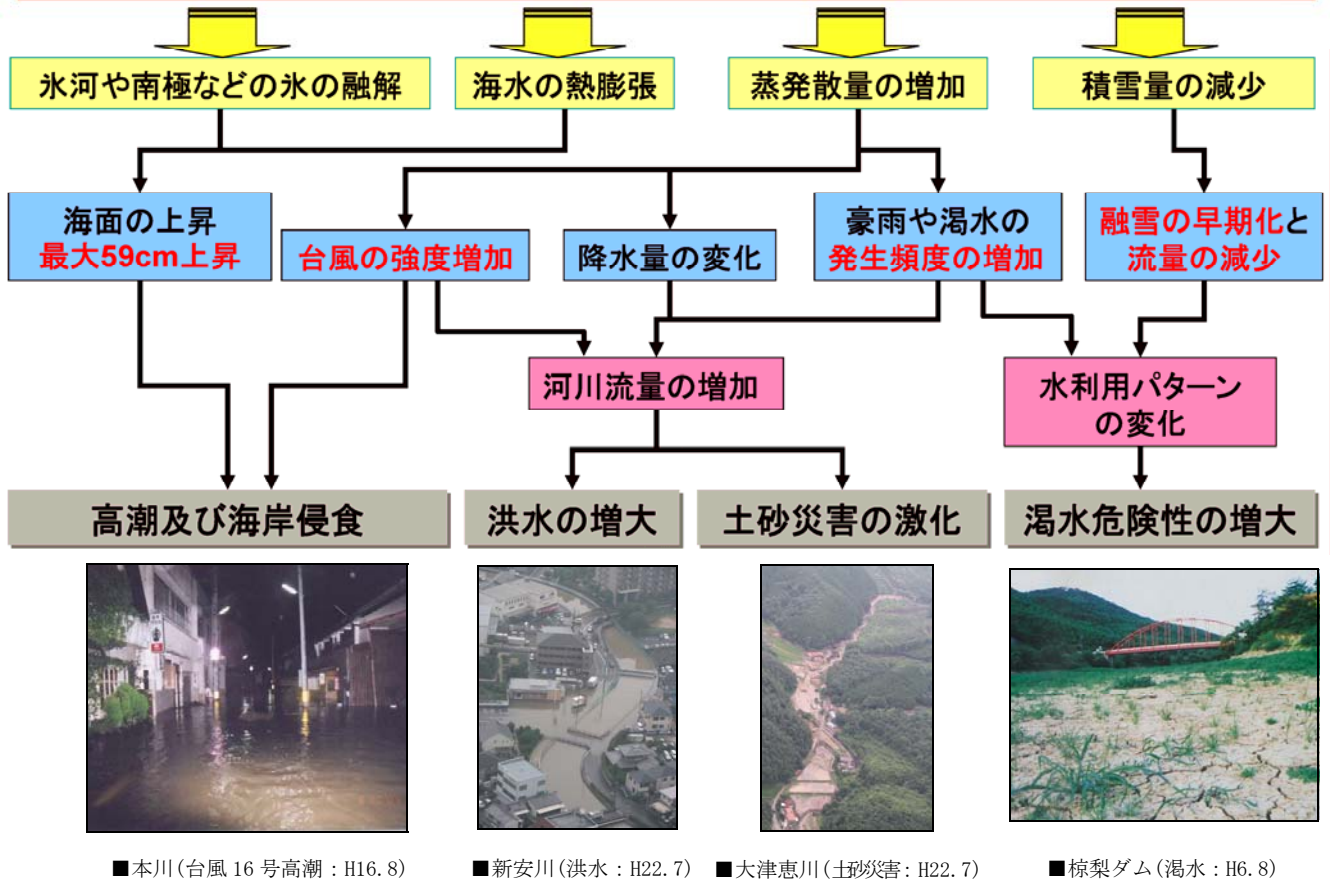
- 過去10年間の水害被害額（2,102億円）と被害棟数（23,000棟）は、全国平均の約2倍
- 過去20年間に高潮被害は、7回（同10年間で3回）発生
- 河川の底質悪化

- 多発するゲリラ豪雨

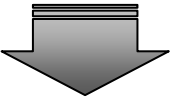
○ 1時間に50mmや100mmを越す集中豪雨が増加傾向にある。



温室効果ガスが大量に排出されて大気中の濃度が高まり熱の吸収が増えた結果、気温が上昇。これに伴い海面水位も上昇



「弱み」を克服し、「強み」を最大限に活かす！



◆ 河川事業が担う目指す県土の将来像 ～ 10年後の社会資本のあるべき姿 ～

＜社会資本未来プランから抜粋＞

**防災・減災**

- ・災害時における県民の生命・身体・財産への被害を最小限にするための県土づくりが進むとともに、自ら身を守る「自助」、地域で助け合う「共助」、県・市町の行う「公助」の役割分担と連携により、社会全体で取り組む防災協働社会が進展しています。

**環境保全**

- ・自然環境の保全が進んでいます。

**観光基盤**

- ・観光インフラが整備され、「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」を確立しています。

## 2 河川事業を取り巻く環境

### ◆ 河川事業を取り巻く環境の変化

これまでの河川整備は、河川整備計画で今後 20～30 年間に実施する河川整備等の区間や規模を位置づけ、河川改修や高潮対策等の整備を進めてきました。

一方で、局部改良的な要素の高い箇所については、浸水実績や背後地の状況から重要度を判断し、護岸等の整備を進めてきました。

しかしながら、県の財政健全化に向けた取り組みや、集中豪雨の多発、河川管理施設の老朽化、河川環境に対する問題意識の高まり等により、河川事業を取り巻く環境は大きく変化しています。

## 3 河川事業の取り組むべき課題

### ◆ 河川事業の取り組むべき課題

#### 課題Ⅰ 防災・減災対策の充実・強化

高齢化の影響などにより災害時要援護者が増加している中、県内の防護達成人口率は依然として低い水準にあり、改修を必要とする区間が多く残っています。

また、東南海・南海地震等は、高い確率で発生が予測されており、地震・津波対策として、耐震機能を有する防潮堤や防潮水門等の整備が求められています。

#### 課題Ⅱ 気象状況の変化

近年の気象状況は、地球温暖化などの影響により、1時間 50 mmや 100 mmを超える短時間での集中豪雨が増加しており、地域防災力の向上が求められています。

また、全国的に年間降水量が減少傾向にあり、沿岸部の都市化や社会構造の変化により、近年渇水被害が頻発しています。

#### 課題Ⅲ 維持管理・更新時代への対応

高潮時の浸水対策として建設された排水機などの大型施設が、今後集中的な更新時期を迎えることから、河道浚渫や護岸等の維持管理をセットとしたアセットマネジメントシステムの導入による、計画的・効率的な維持管理形態への転換が求められています。

#### 課題Ⅳ 河川環境の保全と川らしさの復元

急激な開発や社会活動の増大による河川の底質悪化や、これまで進めてきた画一的な改修により、昔から慣れ親しんできた水辺の魅力が失われています。

#### 課題Ⅴ 地域活性化のための賑わいづくりへの対応

河川やダム湖が持つ魅力を活用した新たな賑わいの場の創出が求められています。

持続可能なまちづくりのための中山間地域等の賑わいや地域活性化の拠点として、河川環境整備などの取り組みが求められています。



### Ⅲ 計画の基本方針と実施計画

#### 1 戦略の構築

##### ◆ 戦略の構築

大規模な洪水や高潮による災害に対しては、災害復旧や再度災害防止のための緊急的な河川事業を実施します。

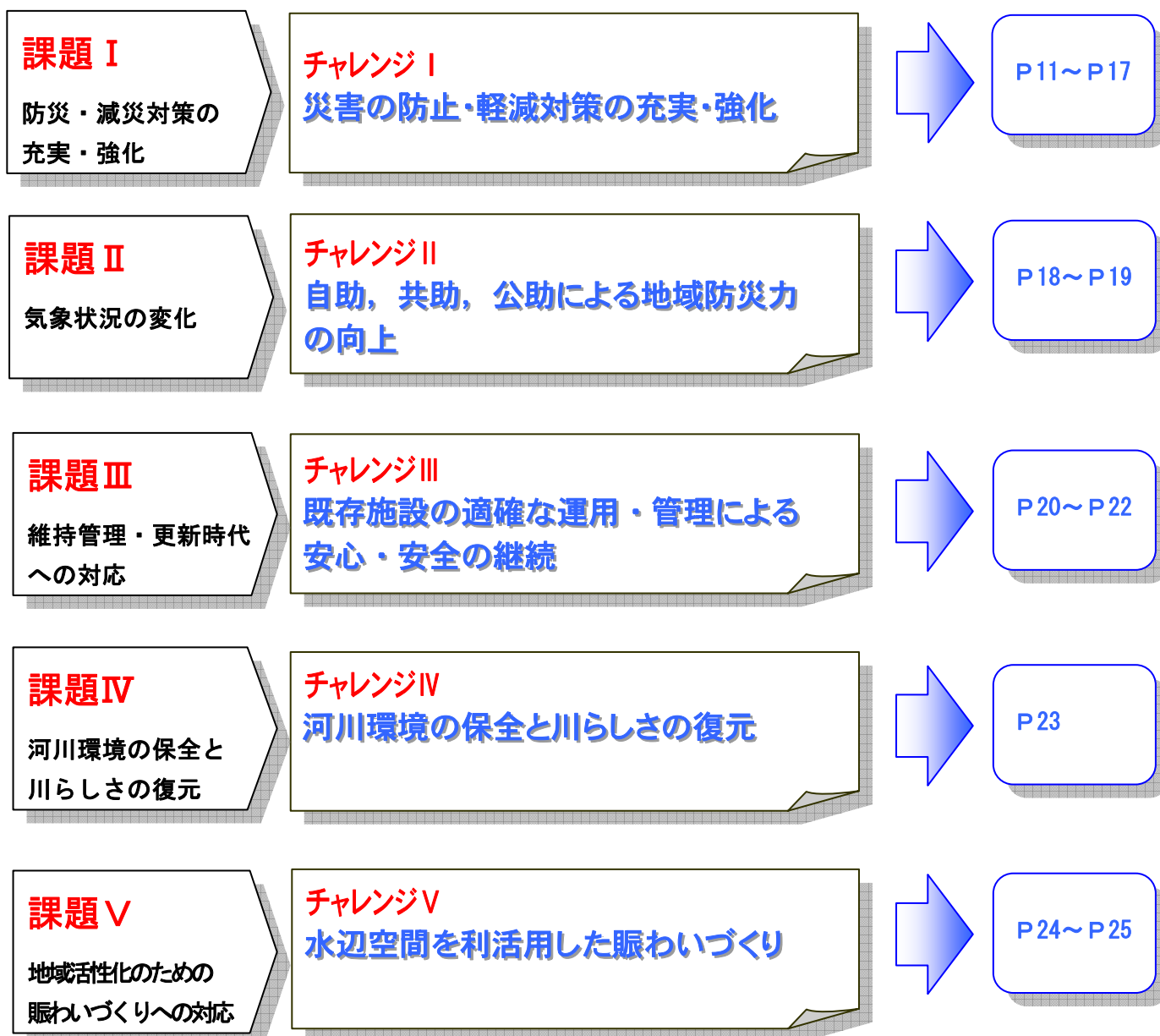
予防的な河川事業については、5つのチャレンジについて、短期、中期、長期、継続に区分した基本戦略を構築して実施します。

(短期：概ね5年を待たず実施，中期：概ね5年で実施，長期：概ね10年で実施，継続：継続実施)

#### 2 計画策定における課題と施策

##### ◆ 課題に対する施策の柱

課題克服のため、次の5つの施策を柱として掲げ、チャレンジします。



### 3 河川事業の基本方針

#### チャレンジⅠ 災害の防止・軽減対策の充実・強化

短期・中期・長期戦略

#### ■ 事業箇所別の優先度の明確化と創意工夫による早期効果発現

- ① “選択と集中”をより明確にするため、すべての改修系の事業箇所を対象に「河川氾濫区域の人口や資産、集客施設」「過去の浸水被害実績」及び「用地の保有状況」などによる客観的な評価を行い、整備の優先順位を明確にした上で優先度の高い箇所から順に、早期完成を目指し整備を進めます。
- ② 計画延長が長いなどの理由により完成までに長期間を要する河川については、特に優先して整備する区間の設定や、段階的施工の検討を行い、“早期効果発現”を目指します。
- ③ 河口部等において防潮水門や排水機場を整備し、高潮や洪水による浸水被害の発生など災害リスク増大への対応を図るとともに、東南海・南海地震等の対策として、地震・高潮対策事業を重点実施します。
- ④ 集中豪雨時に河川が持つ能力以上の水が一気に河川に流入しないよう、下水道事業など他事業との連携も視野に入れ、一時的に雨水を溜めたり浸透させたりする雨水流出抑制対策を促進します。

#### ■ 再度災害防止のための緊急対応

- ① 大規模な災害の発生により緊急的な対応が求められる事業箇所については、最優先順位に位置付け、被災地の再度災害防止に取り組みます。

#### チャレンジⅡ 自助、共助、公助による地域防災力の向上

短期・継続戦略

#### ■ ソフト対策による災害対応力と地域防災力の向上

- ① 気象情報や水位情報のリアルタイム提供や、市町に対するハザードマップの作成支援等により、自助・共助による住民の地域防災活動を促進します。
- ② ダム貯水量などの情報提供や節水の呼びかけを行うことにより、水資源に対する意識の普及啓発に努めます。

■ 既存施設の適確な運用・管理，維持管理費の平準化と創意工夫による維持管理コストの縮減

- ① アセットマネジメントシステムの導入により，堤防・護岸などの河川管理施設の計画的な維持修繕に取り組むとともに，大規模な施設更新を行う必要のある既設ダムゲートの施設や河川の排水機等の大型施設の長寿命化計画を策定することでライフサイクルコストの縮減に取り組み，各年度の予算の平準化を図ります。（特に，ダム事業は，建設からダム施設更新への移行を明確化。）
- ② 新たな公共サービスの担い手として，地域住民が自発的に参加する「アダプト活動」を積極的に促進するとともに，NPOなど各種団体と連携した河川維持管理手法の検討を行います。
- ③ ダムや排水機などの既存施設を適確に運用・管理することにより，洪水や高潮，濁水に対する災害リスクの低減に努めます。
- ④ 河積阻害の原因となる流出土砂の除去の促進や，砂防事業など他事業との連携による維持管理コスト縮減策に取り組みます。

■ 水辺の魅力復元と多自然川づくり

- ① 周辺の開発等により悪化した河川底質の改善や，「多自然川づくり」に取り組み，河川が本来持っている生物の生息環境や美しい景観を保全・創出します。
- ② ダムの整備と適確な運用・管理により，河川に生息する魚や植物，景観や水質の維持等，河川環境の保全と水資源の適正管理に努めます。

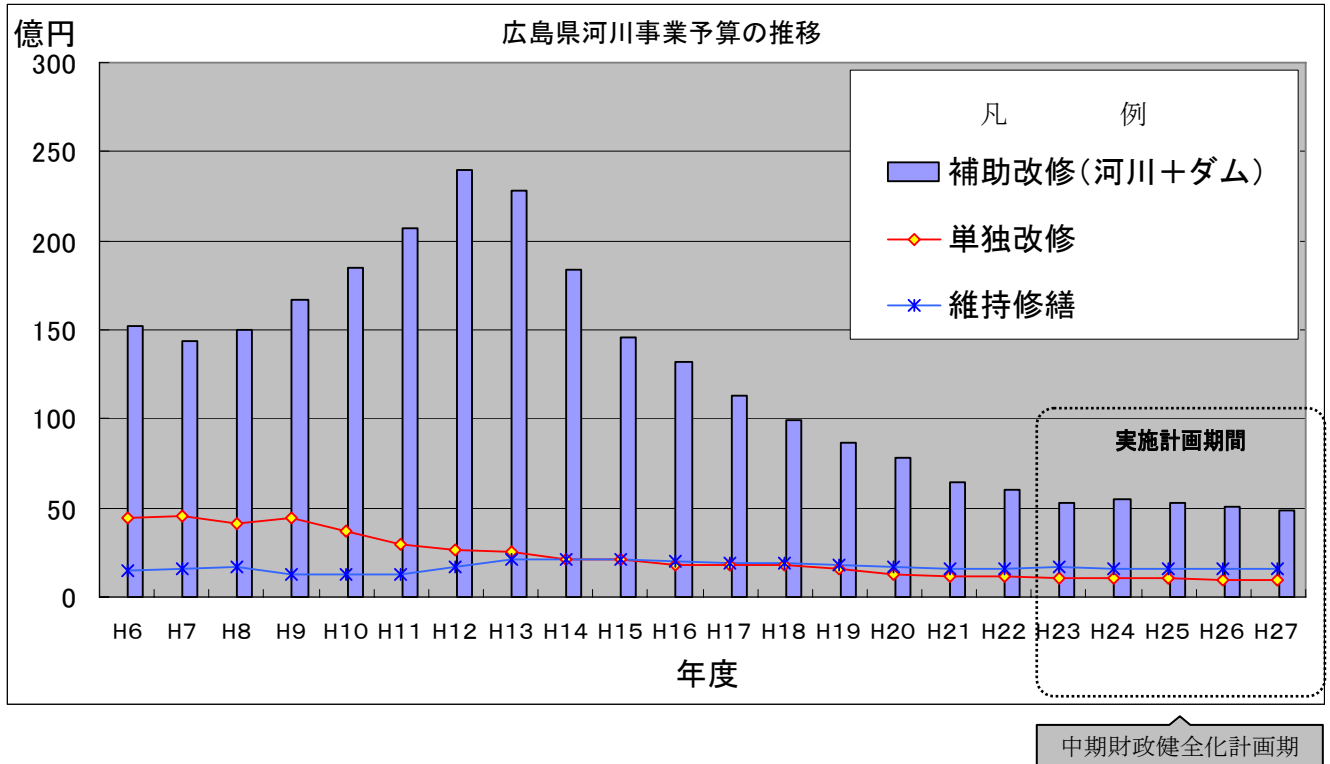
■ 水辺空間の利活用の促進

- ① 既存の階段護岸やダム，河畔緑地等の多目的利用を促進し，水辺の魅力を活かした新たな観光資源や集客の場の創出など，賑わいづくりや地域活性化を支援します。

## 4 投資規模

### ◆ 河川事業予算の推移

河川事業の予算は、国や県の財政悪化に伴う公共事業費の縮減等により、平成 12 年度をピークに 10 年間で急激に減少しています。



### ◆ 投資予算額 : 概ね 390 億円 (直轄事業負担金を除く)

「ひろしま川づくり実施計画 2011」では、平成 23 年度から平成 27 年度の 5 カ年について、平成 22 年 12 月策定の「中期財政健全化計画」に基づき具体的な投資規模を設定しました。

投資予定額 (H23~H27)		
補 助	河川事業 (ダム事業を含む)	260 億円
単 独	河川改修	50 億円
	維持修繕	80 億円
合 計		390 億円

## 5 実施計画の期間

### ◆ 計画期間 : 平成 23 (2011) 年度~平成 27 (2015) 年度の 5 カ年

平成 22 年 10 月策定の「ひろしま未来チャレンジビジョン」及び平成 23 年 3 月策定の「社会資本未来プラン」の概ね 10 年間の展望を見据えながら、河川事業の箇所別工期が比較的長いこと等を踏まえ、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 カ年の計画としました。

◆ 河川事業の実施方針

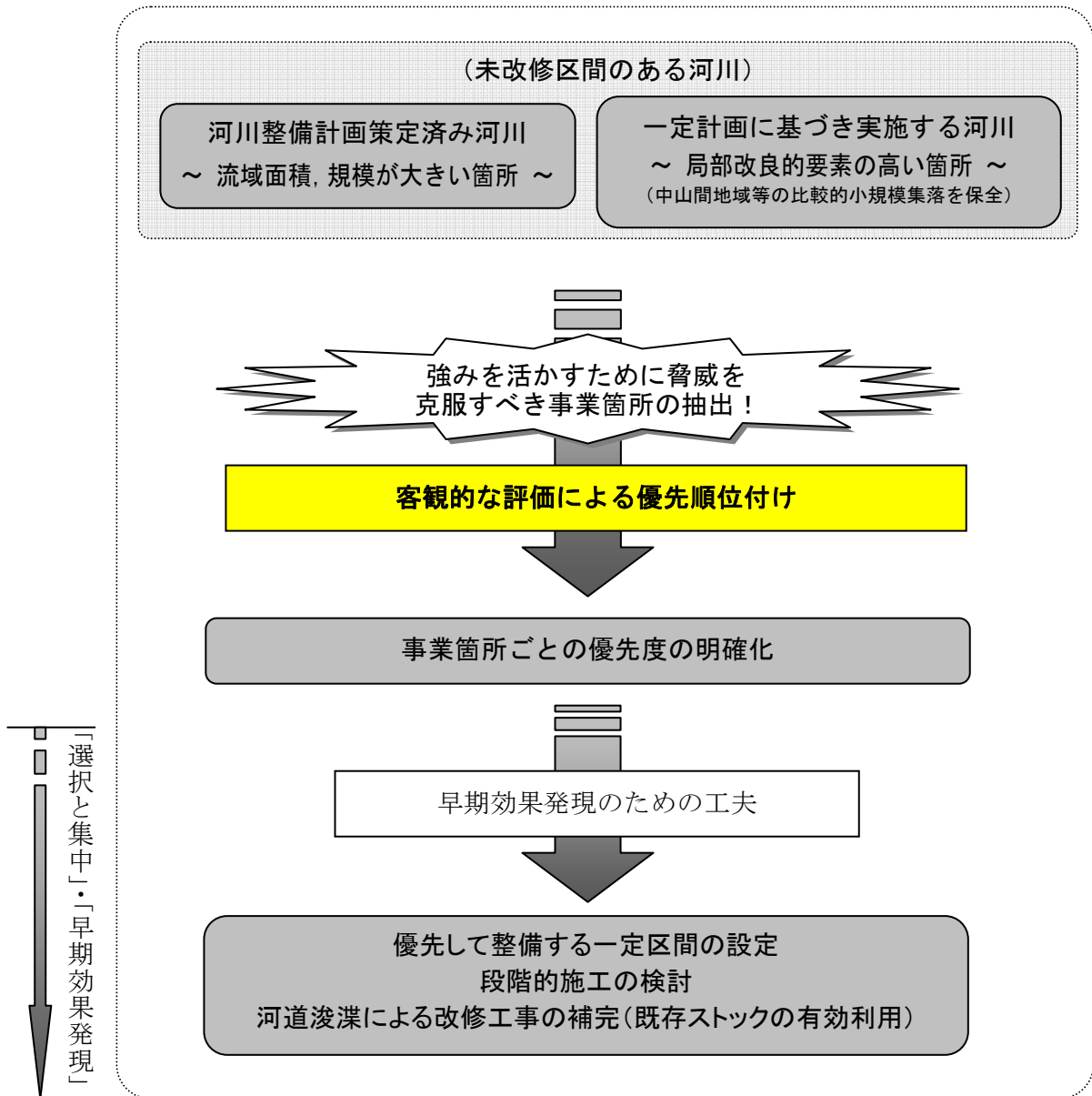
河川改修事業、高潮対策事業は、客観的な評価により優先度を明確にした上で、「選択と集中」を徹底し、優先度や緊急性の高い箇所から整備を図り、“優先して整備する一定区間の設定”，“段階的施工の検討”，“河道浚渫による改修工事の補完（既存ストックの有効利用）”等の工夫を行うことで「早期効果の発現」を目指します。

また、各建設事務所（支所）、関係市町から意見を聴取し、優先的に整備する箇所を定める一方で、事業箇所の現況に応じて維持管理により対応する箇所を新たに設定します。

◆ 事業実施河川について

未改修区間のある河川において、「河川整備計画策定済み河川（予定を含む）」、「一定計画に基づき実施する河川（延長が約 50m以上）」に区分し、事業実施河川を選定しました。

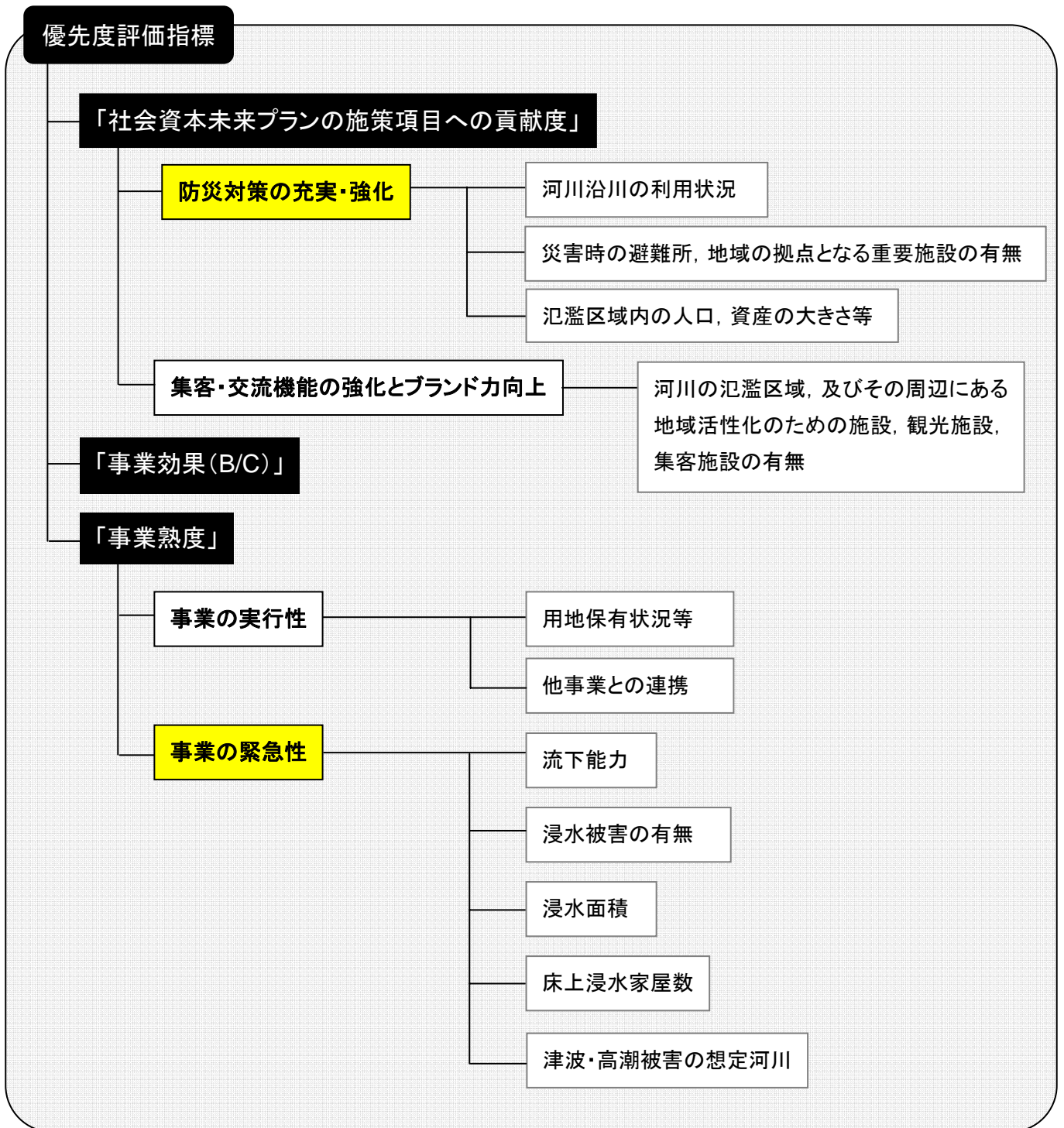
河川事業の実施フロー



## 7 優先度評価

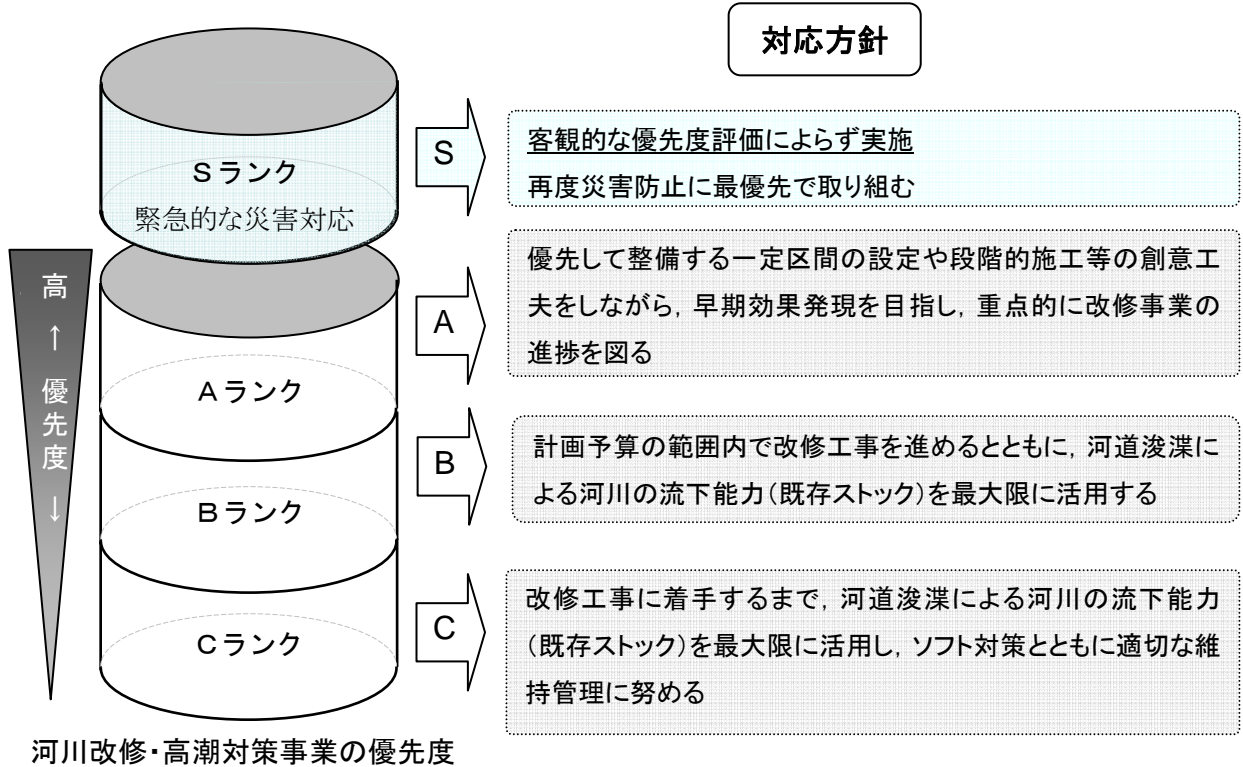
### ◆ 優先度評価指標

次の客観的な指標により，各事業箇所の優先度評価を行いました。



## ◆ 河川事業・高潮事業のランクごとの対応方針

河川改修・高潮対策事業などハード系の事業箇所について、「客観的な評価指標による優先順位付け」を行った後、全箇所を3つのランクに区分し、つぎの対応方針により事業を実施します。



## 8 事業実施箇所（評価結果）

### ◆ 評価結果（平成 23 年度評価）

優先度評価結果により、5カ年で実施する箇所は次のとおりです。（P28 参照）

区分	完成	部分完成	継続	合計
整備計画河川	2箇所	12箇所	19箇所	33箇所
一定計画河川	0箇所	5箇所	29箇所	34箇所
合計	2箇所	17箇所	48箇所	67箇所
主な箇所	羽原川, 山倉川	猿猴川, 手城川, 江の川, 成羽川, 本川, 入野川 他 11箇所	尾崎川, 国兼川, 西城川, 内神川, 松板川, 神谷川 他 42箇所	

注) 洪水・高潮による浸水被害の状況により、優先度は計画期間中でも変化する場合があります。

### ◆ 整備方針

- 完成 : 5カ年で計画区間が完成するよう重点整備を行う
- 部分完成 : 5カ年で計画区間の一定部分が完成するよう重点整備を行う
- 継続 : 計画予算の範囲内で事業進捗を図る

## ◆ ダム建設事業の推進

ダムは、洪水時に上流からの河川流量を調節し、下流の河川流量を低減させる洪水調節機能を有しており、下流の河川事業とともに、河川の流域全体の治水安全度を確保するため、計画的に事業を進めます。

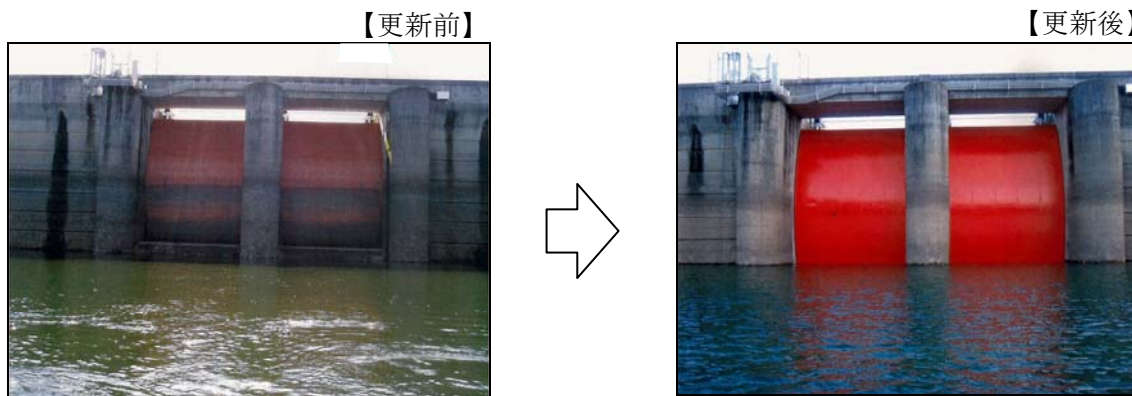
広島県のダム建設事業は、現在、仁賀ダム（平成 23 年度完成予定）、野間川ダム（平成 24 年度完成予定）、庄原ダム（平成 27 年度完成予定）の 3 箇所が事業中で、平成 27 年度までに、すべて完成する予定としています。



■ 庄原ダムの完成パース

## ◆ 建設から維持管理への転換

建設後、長期間経過したダムは、施設更新が必要となるため、維持管理計画（更新計画）を策定し、計画的な施設更新・改築を行います。



■ 棕梨ダムのゲートの補修



## ◆ 広島県の河川構造物の耐震対策について

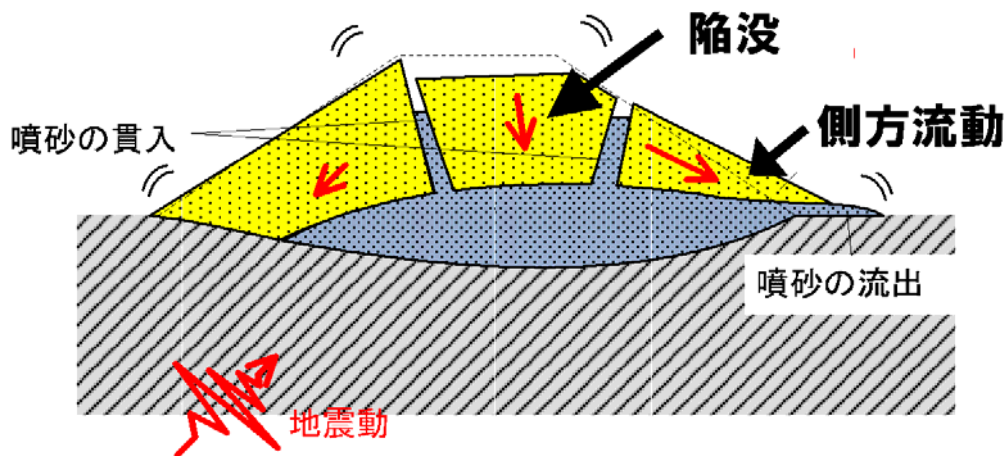
## ○ 広島県の地震想定

広島県の防災計画で想定されている地震は、海溝型では東南海・南海地震であり、沿岸部で地震・津波の影響が考えられます。

また、断層による地震では、己斐断層，五日市断層による地震が想定され、広島市，廿日市で影響が考えられます。

## ○ 河川管理施設の対応方針

広島県の沿岸部の堤防については、液状化による堤防の沈下，変形で背後地が浸水しないよう耐震対策を進めます。



■ 築堤の液状化による被災メカニズム

重要構造物である防潮水門（本川，羽原川）については、想定される最大規模の地震に対し、機能を維持できるよう耐震対策を進めます。



■ 本川



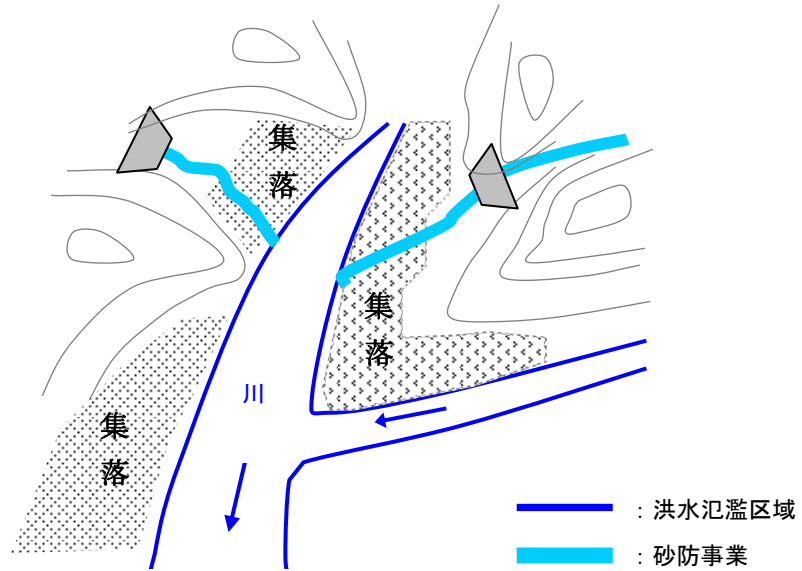
■ 羽原川

今後、地震・津波対策の基準の見直しがなされれば、ソフト対策等を含めた対応を検討していきます。

## 1.1 他事業との連携

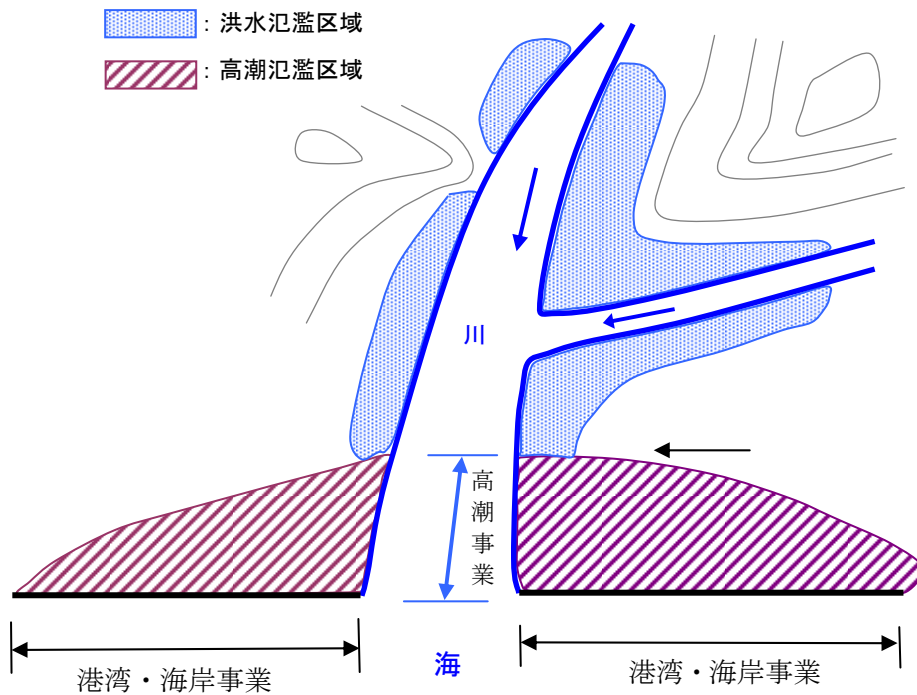
### ◆ 砂防事業との連携

砂防事業と連携することにより、地域全体の安全度を確保し、地域を土砂災害、洪水から守ります。



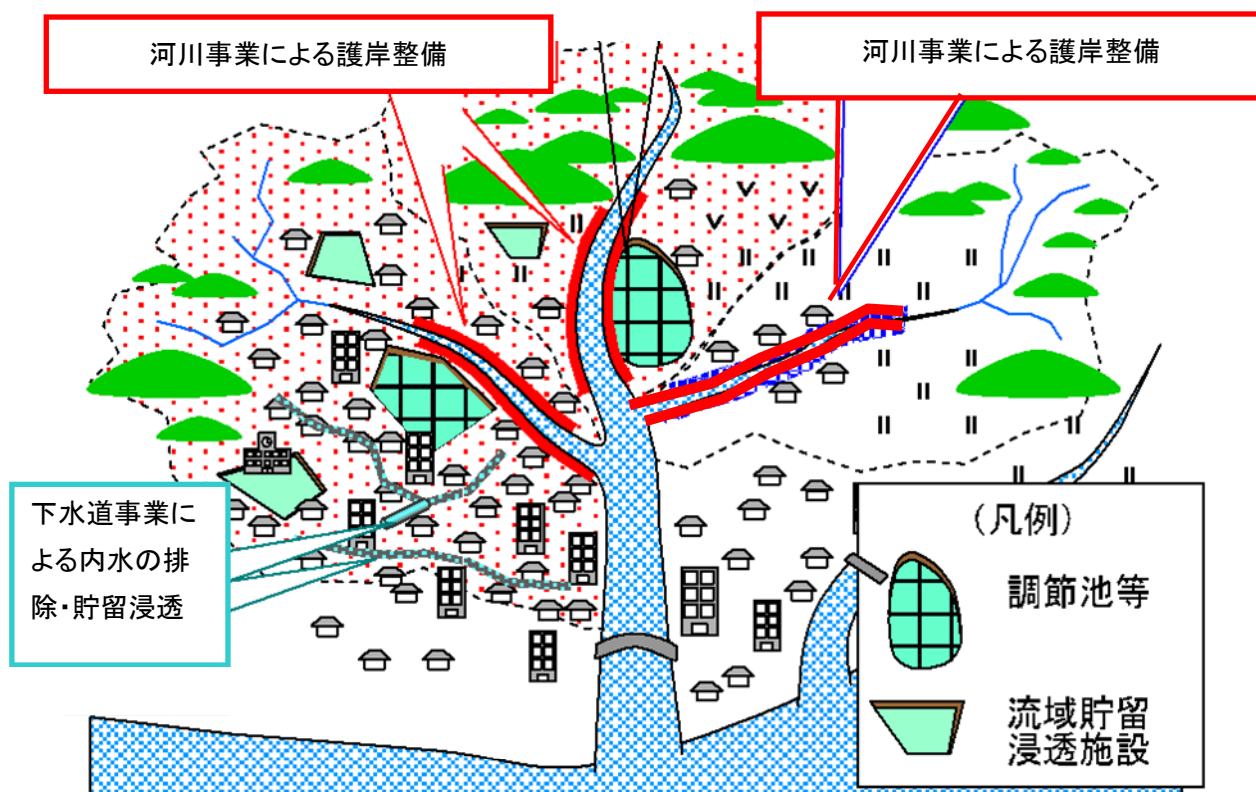
### ◆ 港湾・海岸事業との連携

港湾・海岸事業と連携することにより、沿岸地域の安全度を確保し、地域を高潮から守ります。



## ◆ 下水道事業との連携

下水道事業と連携することにより，地域全体の治水安全度を確保し，地域を内水氾濫等から守ります。



◆ ソフト対策による減災への取り組み

近年頻発している局地的豪雨などによる突発的な洪水が発生した場合にも、人的被害の回避・軽減及び県民生活や社会経済への深刻なダメージの回避を目的として、ハード対策だけでなくソフト対策による減災にも取り組んでいきます。

■ 災害の危険度のわかりやすい提示

- ・ 浸水想定区域図の公表
- ・ 市町の洪水ハザードマップへの作成支援

■ 水防体制の充実強化

- ・ 水防管理団体との連携強化
- ・ 水防資材の確保や水防演習の実施

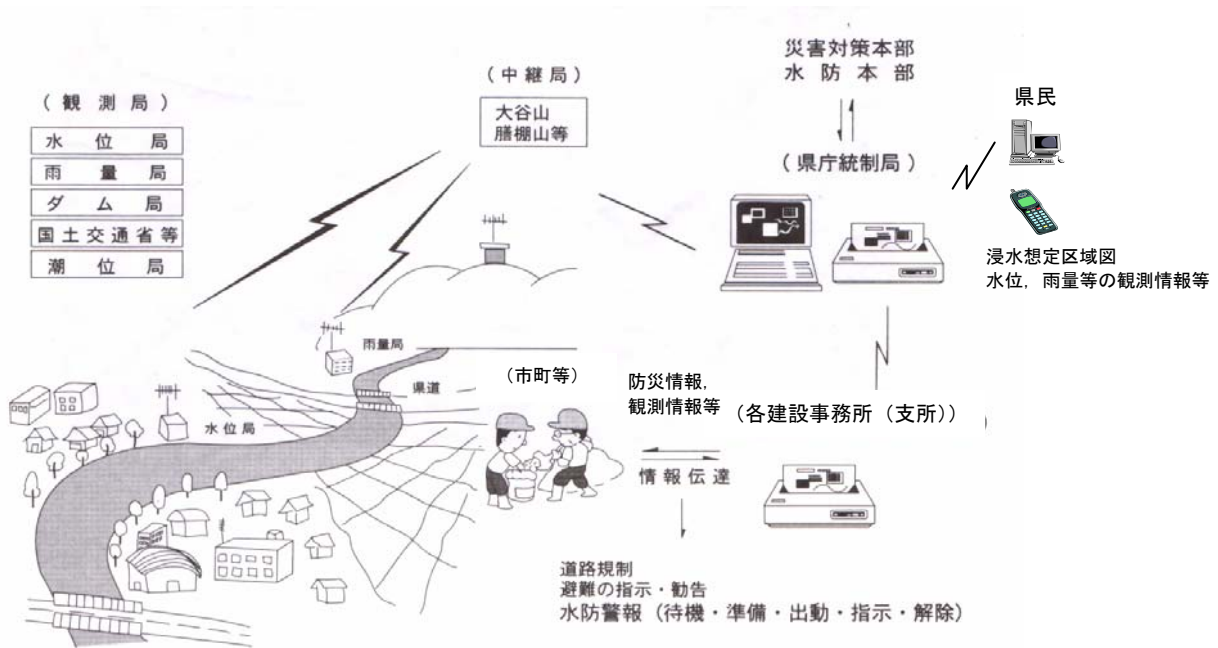
■ 地域・住民と連携した施設管理

- ・ アダプト制度を活用した施設管理の推進

■ 水防活動や住民の警戒避難などに役立つ情報提供【河川管理情報システムの活用】

- ・ 雨量、水位等の観測情報の監視の充実
- ・ 洪水予報や水防警報などの防災情報の見直しとより確実な伝達
- ・ 高精度な Xバンド MP レーダによる降雨観測情報の提供とこれを活用した防災情報の提供
- ・ インターネットや携帯電話の利用など効果的な情報提供方法の拡充

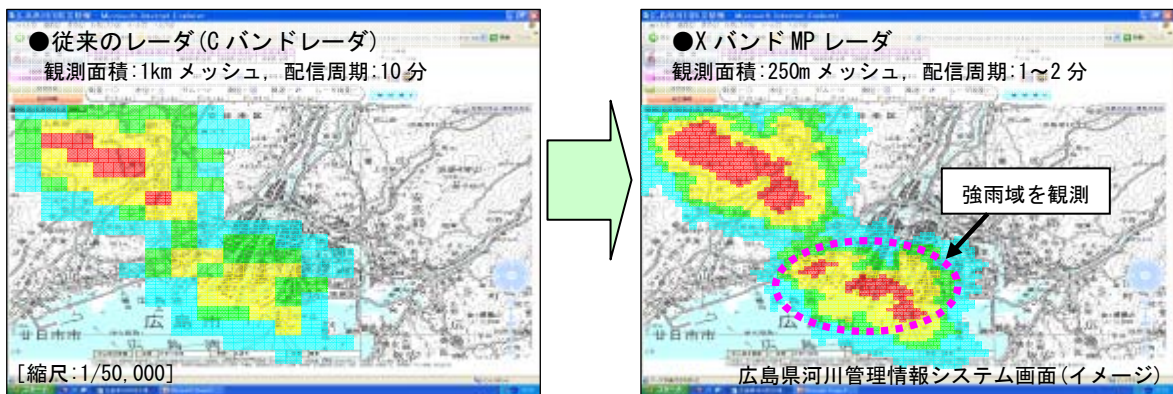
◆ 河川管理情報システムの構成



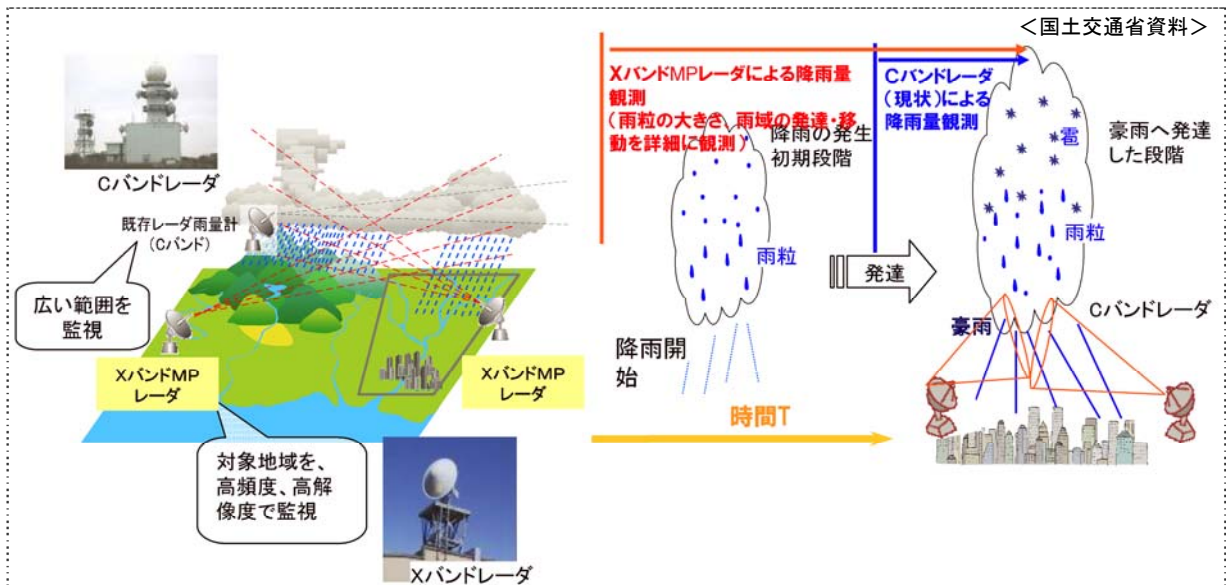
## ◆ 新開発のXバンドMPレーダによる降雨観測情報の提供

局地的な大雨や集中豪雨の監視・観測を強化し、ゲリラ豪雨等による河川の水位上昇やはん濫等の危険度の予測精度の向上を図るため、国土交通省がXバンドMPレーダを設置しました。

このレーダから得られる詳細な降雨観測情報等を広島県河川管理情報システムから県民にいち早く提供し、早期避難や警戒に役立てる取り組みを進めます。



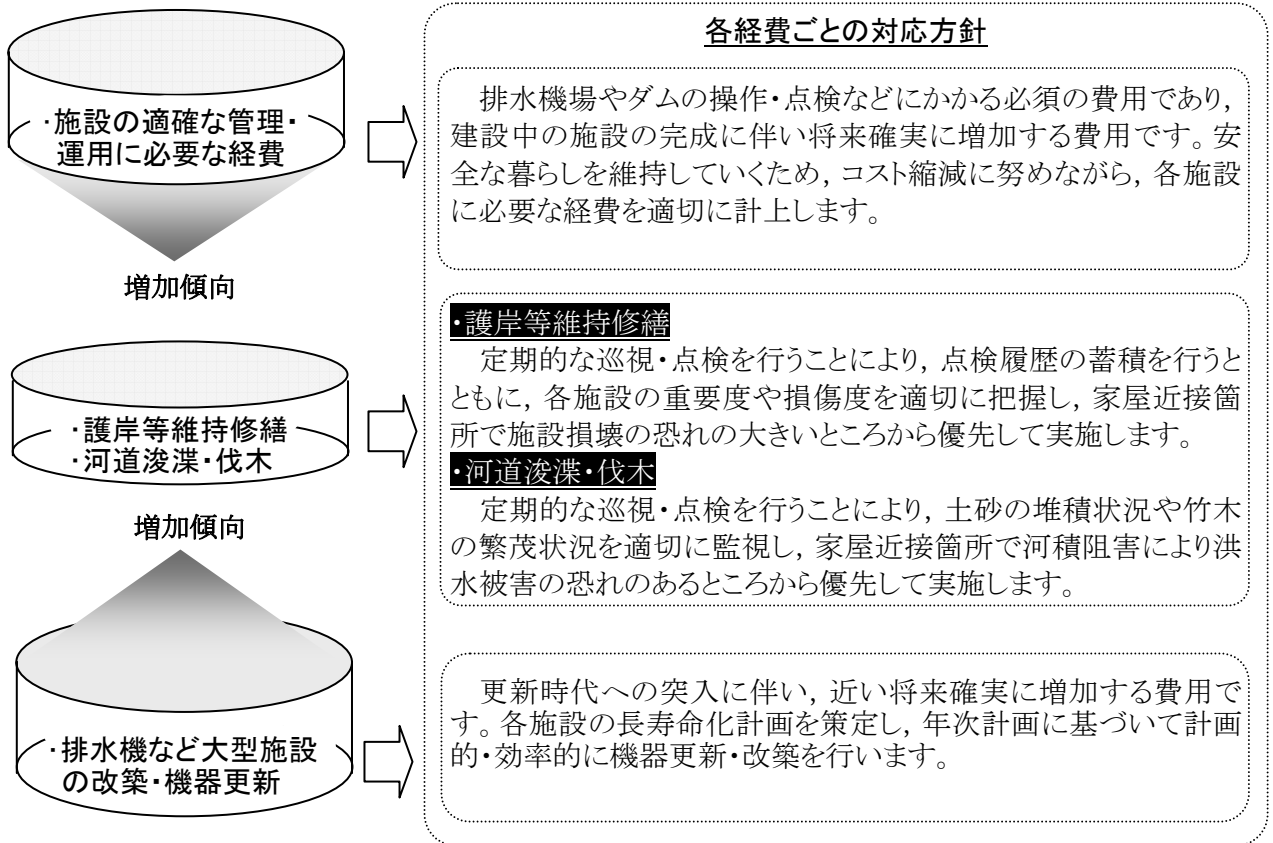
《効果》局地的豪雨や集中豪雨に対して発生エリアの判別や早期の察知が可能となり、より迅速で的確な防災活動や避難行動に役立てることができます。



### ■ XバンドMPレーダの設置

◆ 維持修繕事業の対応方針

新たな河川施設が増加するなか、創意工夫や効率的・効果的な施設管理を推進することにより、増加する経費を最小限に抑制し、適正な維持修繕を実施します。

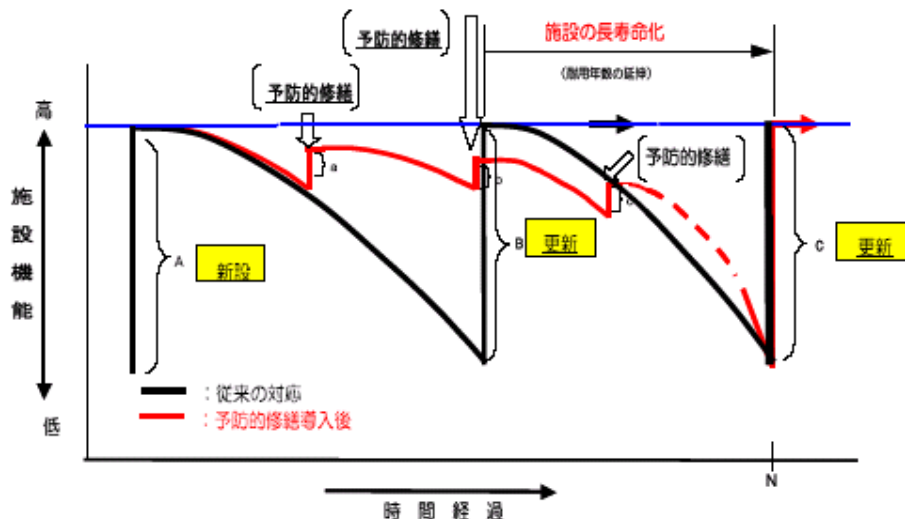


◆ 排水機など大型施設の機器更新

広島県では、これまで異常高潮等による浸水被害を解消するため、河口部において防潮水門や強制排水を行う排水機場を整備してきました。

この中には設置後40年以上を経過する施設もあるため、5年から10年といった近い将来、更新のピークを迎えると同時に、財政負担も急激に増大することが予想されます。

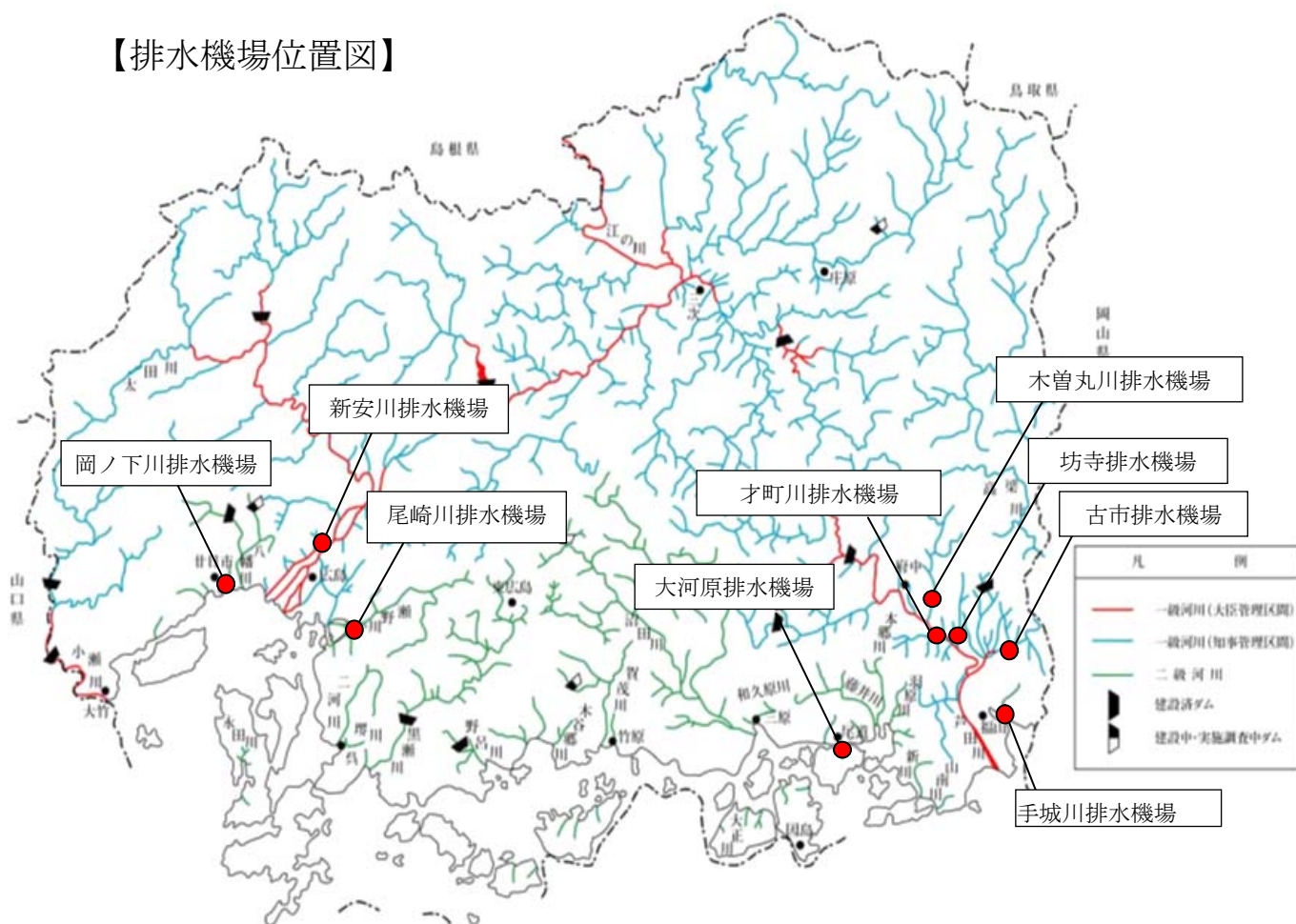
このため、排水機場及び水門・樋門等の河川管理施設について、長寿命化計画を策定し、計画に基づいた維持管理（点検・機器更新等）を実施することで、施設の延命化とライフサイクルコストの縮減を図ります。



## ◆ 排水機場の維持修繕

県内9箇所の排水機場で、ポンプ等の大型施設の維持修繕を計画的に実施します。

### 【排水機場位置図】



## ◆ ラブリバー制度

ボランティア活動として、県の管理する一級河川・二級河川の清掃，美化等を行う団体，企業，個人をラブリバー団体として認定し，表示板の設置，傷害・損害賠償保険の加入，活動費の一部支援などを行うことで，その活動をバックアップすることにより，住民と行政の協働体制の構築を目指します。

※ 平成 23 年 3 月現在で認定団体数は 191 団体



■ 清掃活動の様子

### 【認定条件】

- 1 協力に関する覚書を締結した市町において県の管理する一級河川，二級河川における 50 メートル以上の活動であること
- 2 河川敷の清掃・除草，その他河川環境を改善する活動を行う団体，企業，個人などであること



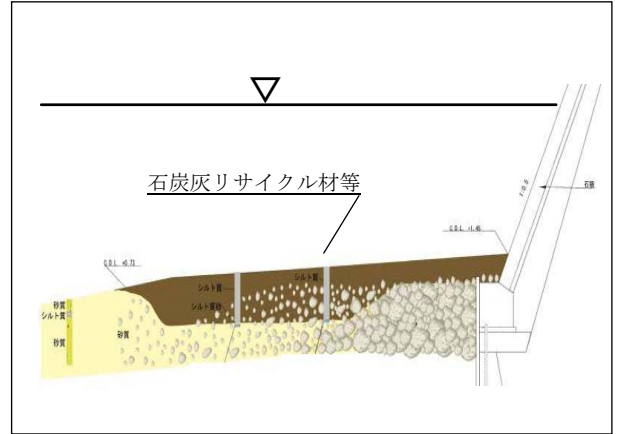
## 14 河川環境の保全と川らしさの復元

### ◆ 河川の底質の改善

河川の底質の改善（京橋川等で実施中）を実施し、水辺の魅力の復元に取り組みます。



■ 京橋川の底質改善（広島市）



■ 河床の横断面図

### ◆ 多自然川づくりの推進

河川が持つ生物の生息環境や河川景観を保全・創出するため、「多自然川づくり」に取り組みます。

#### 「多自然川づくり」

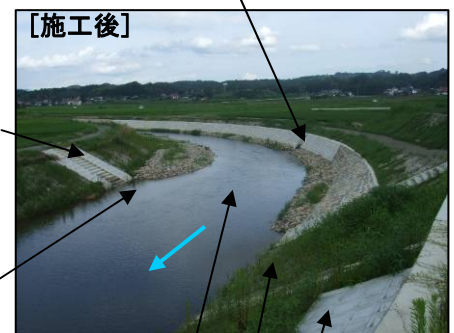
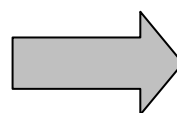
多自然川づくりとは、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出することです。

#### <取組事例>

- ◇ 過度なショートカットをしない。
- ◇ 画一的な標準断面形にして水際や河床を単調にしない。
- ◇ 川幅を広く確保できるところは広く確保する。
- ◇ もともとの縦断形状にならった縦断計画とする。
- ◇ 支川や流域の連続性を確保する。



[施工前]



川幅を広くとるために護岸を見直し

[施工後]

川らしい自然な滞筋が形成された  
草むらが形成され、水性生物の隠れ家ができた  
緩やかな護岸

■ 国兼川の多自然川づくり（庄原市）

## 15 水辺空間を利活用した賑わいづくり

### ◆ 既存ストックの多目的利用

既存の階段護岸やダム、河畔緑地等の多目的利用を促進し、水辺の魅力を活かした観光資源や集客の場の創出など、新たな賑わいづくりを支援します。

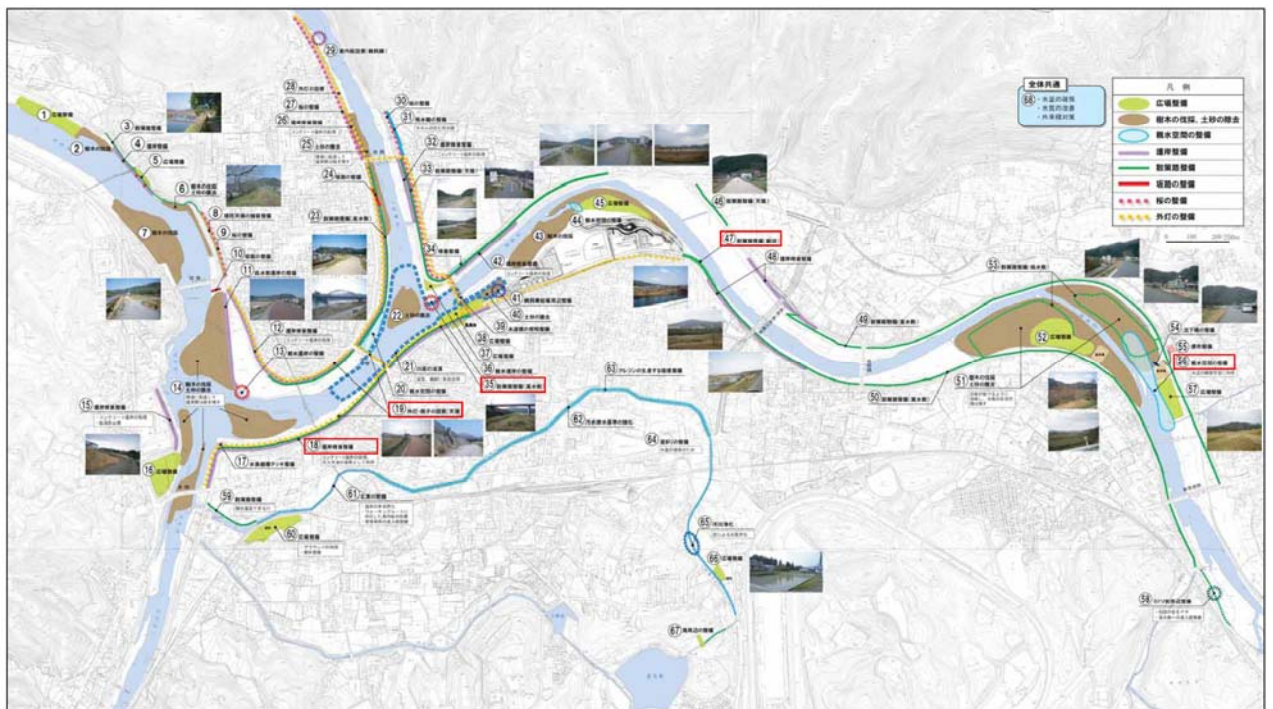


既存堤防を活用した  
河岸緑地整備による  
快適な水辺空間の提供

■ 河岸緑地（京橋川：広島市）

### ◆ 中山間地域等の地域活性化のための河川空間利用

中山間地域等の地域活性化のための河川空間を利用した賑わいづくりを支援します。

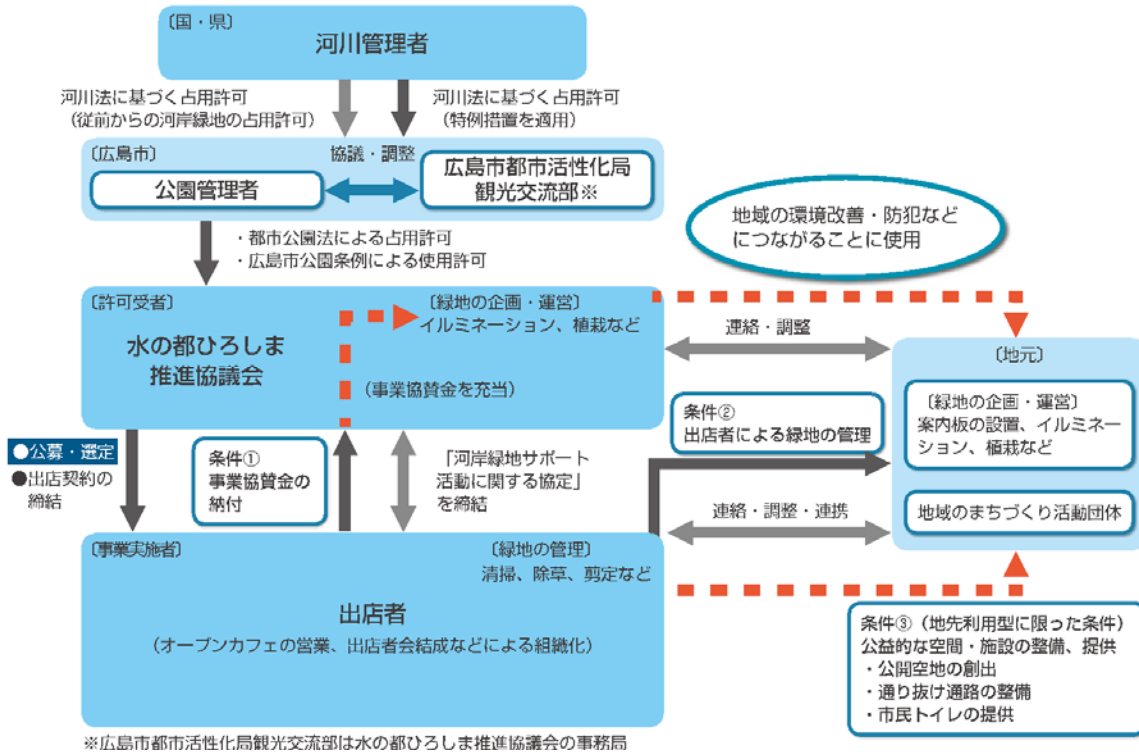


■ 三次市三川合流部周辺河川環境整備計画の事例

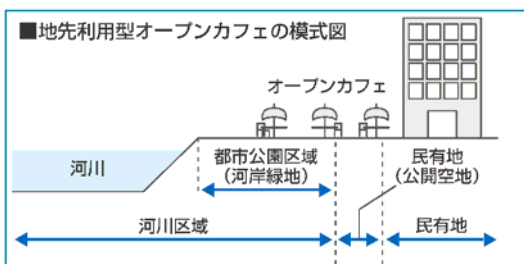
## ◆ 「水の都ひろしま」構想の推進

既存の階段護岸を利用した水上タクシーの展開や河岸緑地へのオープンカフェの出展など、「水の都ひろしま」構想の推進を支援します。

### 『水辺のオープンカフェ』のスキーム



■ 水辺のオープンカフェ（京橋川：広島市）



■ 既存の階段護岸を利用した水上タクシー（京橋川：広島市）

## IV 成果目標

### 1 成果目標

#### ◆ 成果目標の設定

本県の強みを最大限活かすため、洪水・高潮などの脅威からくる「弱み」の克服度について、客観的な評価指標を掲げ、その指標について成果目標を設定しました。

#### ◆ 評価指標 【 洪水高潮防護達成人口率 】

本県が管理している河川において、洪水や高潮により浸水被害が想定される区域内の人口に対する、改修が完了した区域内の人口の割合を「防護達成人口率」として実施計画の評価指標としました。

$$\text{洪水高潮防護達成人口率} = \text{防護達成人口} \div \text{浸水想定区域内人口}$$

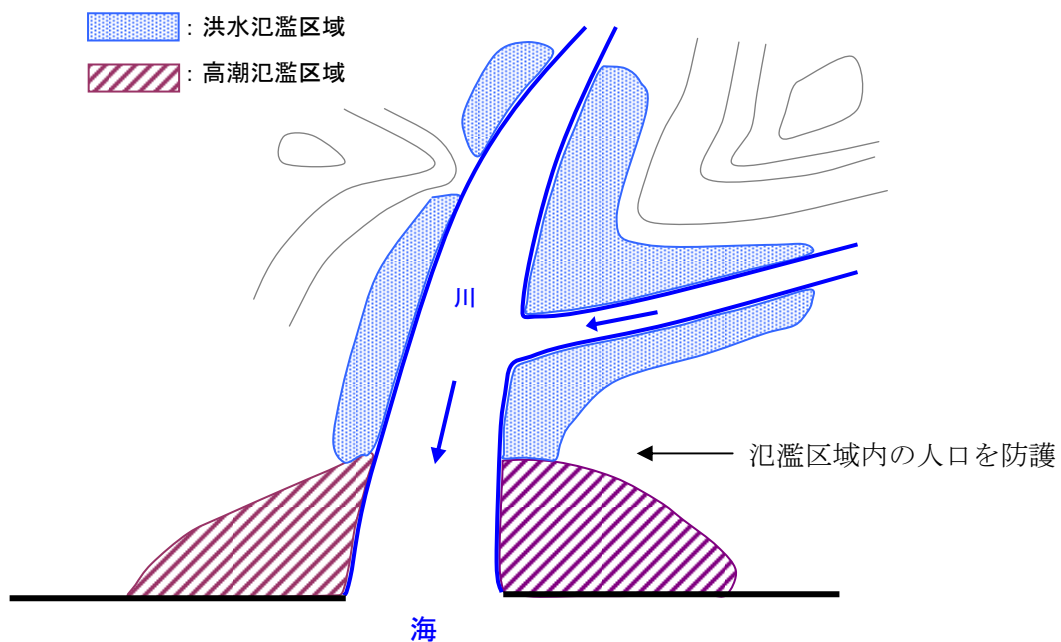
※ 浸水想定区域は広島県が管理している河川を対象としています

## ◆ 成果目標

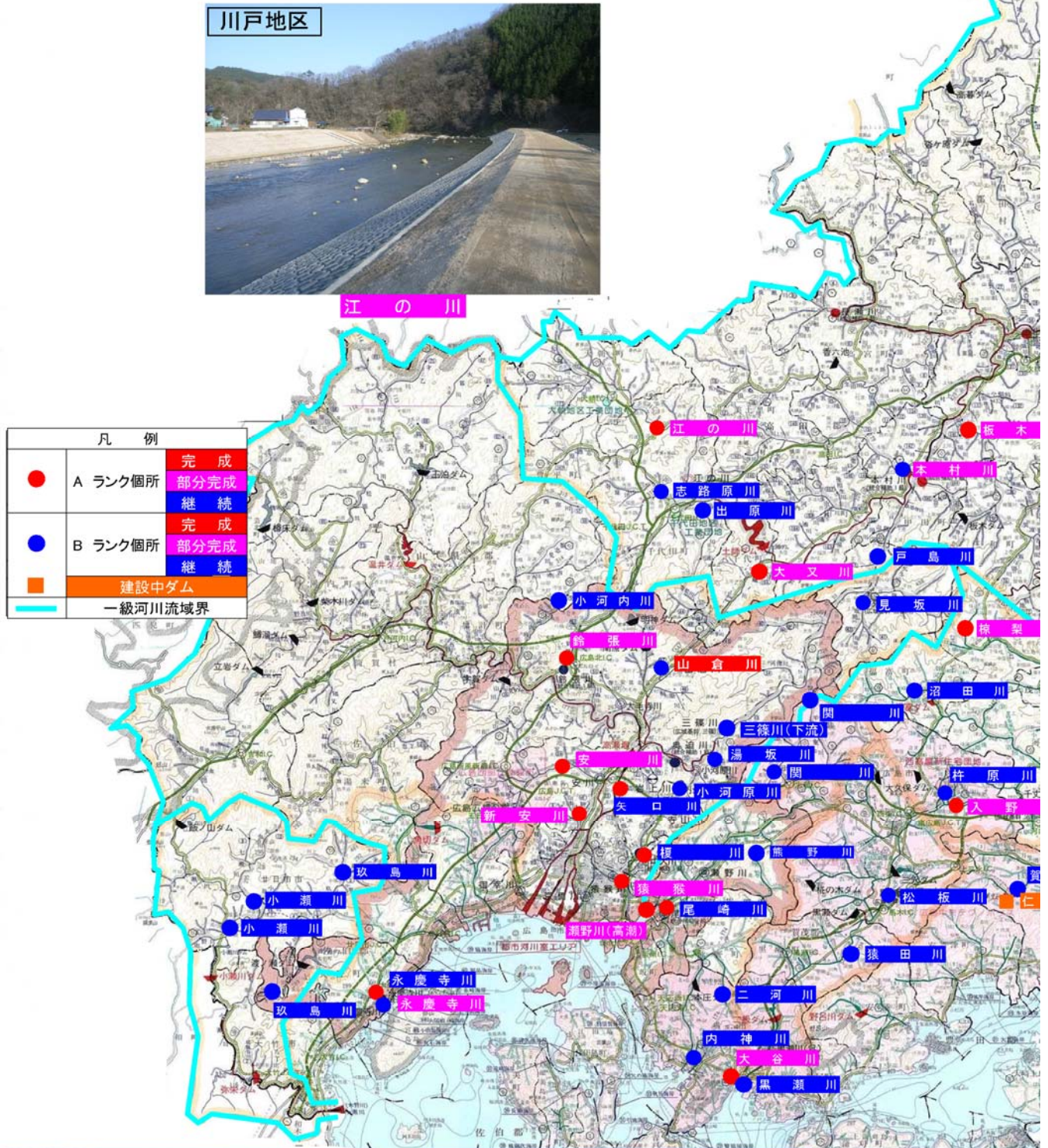
平成 23 (2011) 年度から平成 27 (2015) 年度の 5 ヶ年間の投資により，洪水高潮防護達成人口率を現況値の 52.5%から 60.3%まで引き上げます。

○ 目標 (洪水高潮防護達成人口率)

当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H25末)	最終目標値 (H27末)
52.5%	54.8%	60.3%



【参考】 河川改修・高潮対策事業の実施箇所



永慶寺川

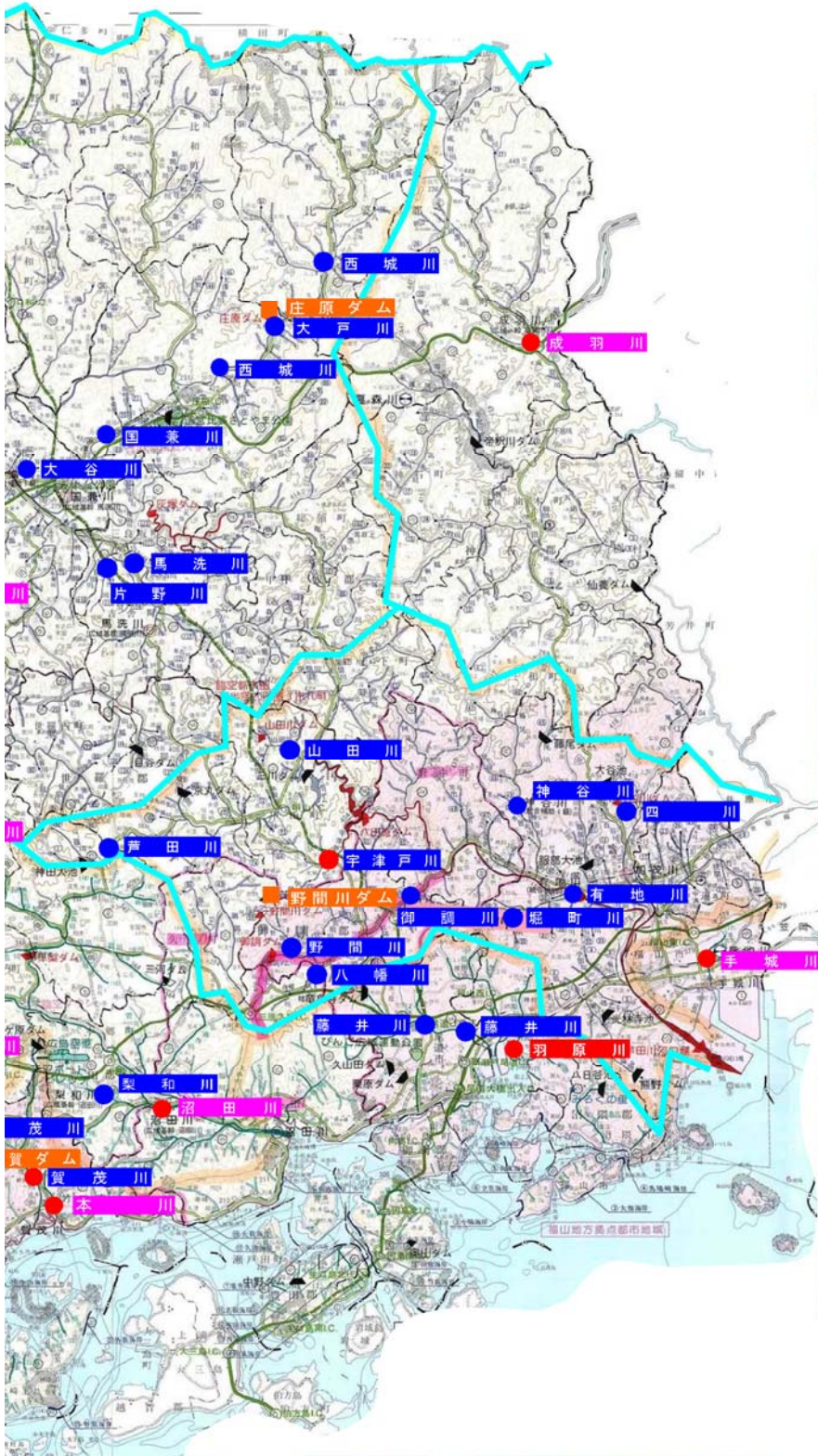


猿猴川

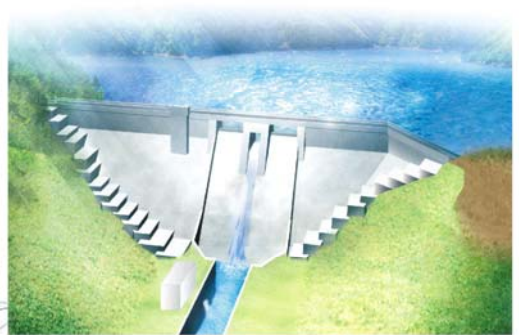


猿

(注) 平成23~27年度の5か年に施工を予定している河川について表記



庄原ダム



野間川ダム



春日池

手城川



猴川



本川



羽原川

---

## ひろしま川づくり実施計画 2011

平成24年1月

広島県土木局河川課

〒730-8511 広島市中区基町 10-52 TEL082-513-3930(直通)

---